

学校教育目標	めざす子どもの姿	総合評価
だれにもやさしく げんきよく じぶんから学ぶ武石の子	学び合い高め合う子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・全校を見ると、元気に学校生活を送っている児童が多い。 ・休み時間や連学年の授業などで、学年に関係なく、仲良く遊んだり、教え合ったりする姿が見られる。 ・自分から学びが進められるように、子どもたちの興味関心を大事にして授業をした。 ・学校行事において、子どもたちの支え合い、学び合いの場面が多く見られた。

今年度の 重点目標	「良いところを見つける・生活を整える・自分から考え、伝える」			
	成果と課題	総合評価	改善策・向上策	学校関係者評価
重点1 豊かな人間性 自分の良さと共に、 友だちの良さを認められる	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や道徳などの日々の授業や日常生活の中で「相手の気持ちや立場を考えること」を指導してきた。また、全校道徳で異学年でグループを作り日々の生活について考え活動を行い、自分の行動を見直したり、全校で意識を同じにして生活したりするようになった。少しずつではあるが集団として頑張ろうとする姿が見られるようになってきた。 ・学年を超えて活動ができる児童が多く、高学年は低学年の面倒を見たり、お手本になったりしている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等を通して、より友だちとの仲を深めていく。日常生活において、教師が発見したよいところを積極的に子どもたちに伝えていく。 ・自己評価、相互評価を効果的に取り入れ、子ども達自身も振り返られるように考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校道徳の取り組みは継続し、特に自己評価の低い子に、周りから認められる経験を重ねてほしい。 ・高学年の児童が活動の計画や運営を任せられ、失敗や達成感を積む経験をできる限りお願いしたい。 ・体験活動を多く取り入れて下さり、その中で得る感覚は、体や精神を育ててくれると思い、ありがたい。
重点2 健康・体力 生き活きと活動できる子	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から、水曜日の掃除の時間に元気アップタイム、わくわくタイム、なかよしタイムを行うようにした。子どもたちが自由に遊ぶわくわくタイムの時間が少なくなったため、体育館を2学年ずつ使えるようにした。体育館で活発に動き回って遊ぶ子が増えた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよしタイムやクラスレクなどを活用し、児童が積極的に体を動かす活動を仕組んでいく。 ・それぞれの学年、個人に合った目標を設定して、活動を行っていく。 ・体力テストの結果を生かし、子ども達の体づくりをしていけるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽会・運動会・金管バンドを通して、一人ひとりが楽しみながらみんなで良いものを作り上げようとする姿が見られた。 ・地域めぐりや農林業体験等を通して、山間地である武石の地形や気候、産業、歴史に興味を持ち、自然と人との関わりを知ることで地域の特長に目を向けられるようになっていっています。
重点3 資質・能力の育成 課題に向かって粘り強く考え、 伝え、解決できる子	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの意欲を大切に考えて授業展開を考え、算数の課題、道徳、国語の課題など考えて発表する機会をできるだけ取り、自分の考えを伝える時間をとった。 ・導入、展開、まとめの授業の流れでパターン化できるところはすることにより、子ども達も授業者も、見通しをもって学習に取り組むことができた。 ・放課後学習に来る児童は、宿題をするという気持ちで来るので、課題解決に向かうこと物姿勢として評価できる。粘り強さという点で、特に文章の読解がにがてな児童がやや多い。また、早く済ませたいという気持ちからか、丁寧さに欠ける場面が見られる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと意見を交流することはできる子が多いので、友だちと課題を解決していけるような場面も設定していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模学級の良い面を伸ばし、一人ひとりがリーダーを務める機会を増やしたり、異年齢間の交流を深められたらと思います。行事での行動を見ても、高学年が低学年を大事にしている様子が伺える。 ・発達障害、集団が苦手な子ども、友人とうまく関われない子への心配りをいただいていると感じている。 ・学校を訪問した際には、先生方をはじめ、学校の雰囲気がとてもよく、地域が入り込みやすいと感じた。 ・個人個人の「らしさ」を伸ばせるような取り組みがあったら、さらに武石小らしさがでてくるような気がします。苦手を克服することも必要ですが、得意を伸ばす事も大切にしていくといいのではと思う。 ・南部支会の学校との交流も大切ですが、友好都市である練馬区の小学生との田植えや稲刈りなどの交流、練馬区の施設を活用した修学旅行など、過去の歴史も踏まえて今後とも継続していくことを希望します。

領域	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教科 指導 活動	授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用を進めることできたか。 ・主体的・対話的で深い学びのある授業を行うことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対話を心がけた授業が行われていた。子ども達の発言する姿から感じることができた。 ・子どもたちが、ICT 機器、chromebook を使う場面を多くとることができた。 ・伝える力を高めるため、少人数を生かし、互いが語り合う授業展開も取り入れた。 		○			<ul style="list-style-type: none"> ・高学年ほどグループ討議を取り入れ、自分の思いや考えを伝えたり、相手の考えを聞いて自分の中で考えを深めたり色々な思いや考えを知ったりする機会をもてるようにする。 ・主体的、対話的で深い学びを行う授業にするために、子どもたちの興味を引き出す学習課題の設定はどうあったらよいか考えていく。
	思考力・判断力・表現力を伸ばす	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてや具体的な手立てがわかる課題解決型の学習ができたか。 ・文字や言葉で表現する場を多く設定できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の授業の流れ、やること、目標が分かる板書を心がけ、継続したことで、子どもたちも毎回その黒板を見て、1時間の流れを確認していた。 ・モニターでの提示、手本の資料、板書の工夫、デジタル教科書の活用など、視覚支援を心がけた。 		○			<ul style="list-style-type: none"> ・ペア活動、グループワークなど、子ども同士が考えを深め合えるような活動を、毎時間少しでも取り入れたい。形だけにならないような工夫も必要。 ・児童が見通しを持ち、積極的に取り組めるような授業を仕組めるようにするために、学習課題やめあてを明確にする。 ・言葉で表現する場があるとき、ない時と偏りだったので、毎回少しずつでも設定していく。
	家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「手引き」を活用し、家庭学習が充実がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初、参観日の懇談会の際に家庭への周知を行った。5月にたけしっ子学習週間の実施をし、家庭学習への意識を高める取り組みを行った。 		○			<ul style="list-style-type: none"> ・児童自身の家庭学習への意識、大切さを理解できていない家庭も多いため、さらに周知が必要。 ・自主学習の取り組みについて、系統性を持たせた取り組みになるよう、職員間で共通理解を図っていく。 ・継続的に指導していく。
	南部支会の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・南部支会4校での児童生徒の交流が図れたか。 ・学年会・教科会等での学び合いができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長門小、和田小と各学年の交流を行ったり、連絡を密にしたりしている。 ・オンラインで他校の学習の取り組みを紹介し合うことを予定している。 ・武石川での交流やマラソン大会の交流など、直接会っての交流をしたり、予定したりしている。直接会って話ができることは子どもたちにとってもありがたかった。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・武石、長門、和田の3校が足並みを揃え、交流をさらに深めていく。 ・計画的に交流できるようにしていく。
	特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・認め合い、所属感のある学級活動がなされたか。 ・共生社会の担い手を育成する児童会活動がなされたか。 ・「個の確立」を図る学校行事や集会活動がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの学級も元気に活動している。個を大切に、どの子にも自己肯定感を高める活動、声かけを全職員で積極的に行っている。 ・様々な理由で、思うように活動に参加できない児童もいるため、児童の心に寄り添いながら自主的に参加できる支援を考えていくことが課題。 ・音楽会・運動会を通して、一人ひとりが積極的に行事に参加し、活動していた。クラス、学校全体、職員が一丸となって良いものを作り上げることができていた。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち一人一人に居場所があるように、職員が子に合わせた支援が出来るようにしていく。 ・子どもたち同士で「認め合う」場面を日常的に設けていきたい。 ・学級経営の見直し、子どもへの関わり方、見取り、声かけなど、教師同士が連携し、全職員で武石小の子どもたちを育てる意識をさらに高めたい。 ・全校での行事を大切に、集団(仲間意識)を大切にしたい。

学 校 運 営	道徳 総合	心を耕し考 えを広める 時間の充 実	・教材研究が十分できたか。 ・地域の素材を生かした学習 ができたか。	・連学年で米作りに取り組んだことにより、学年間交流がで きたり、地域の方とも交流できたりした。 ・特別老人ホームともしびに行き、交流を図る活動を予定し ている。 ・道徳の授業では、自分の考えの変化や、友だちの考えを 聞くことで、いろいろな考えがあることに気づく授業を仕組 んで取り組んでいる。	○	・地域の連携を大切に総合的学習の時間の教材を子どもた ちの実態に合わせて考えていく。 ・行事が重なり、準備や活動が困難なところがある。年度当 初から計画的に進めていくことが必要。 ・地域素材、児童の実態に合わせ道徳の教材を選んでいく。
	家庭・ 地域と の連携	相談 ・支援 体制	・児童、保護者の声を大切に した相談を行い、支援につなげ ることができたか。	・スクールカウンセラーと連携をし、登校渋りのある児童に、 「不安を話せる」人を増やすことができた。 ・より学びやすい場を、保護者と連携して探ることができた。 ・ノートや日常的な連絡を密にし、相談できる雰囲気を作る ことができた。 ・相談週間で担任と一人ひとりの児童と懇談を行った。子ど もの悩みを知る良い機会となった。その子の悩みに対し、ど んな支援がよいのか話し合うことができた。 ・保護者の悩みの声を聞き、支援につなげることができた。	○	・児童アンケートの取り方が、低学年ではどれが自分の思い なのか選びにくい。アンケートの取り方を工夫したい。 ・不登校傾向改善に向けて、今後も家庭、原級との連携を図 っていく。 ・児童の悩みとご家庭での悩みを学校としてきちんと聞き、主 訴をとらえたい。どんなことが問題になっているのか、全職員 で共通理解し、職員全体で対応するようにしたい。
	情報発信	・学校便り、学年便り、ホーム ページ等で学校の様子を伝え ているか。	・学校便り、学年便り、ホーム ページ等で学校の様子を伝え ているか。	・学校便り、年間行事予定、学事報告により、学校の様子 を知らせることができた。 ・学年便りを通して、子どもたちの学校での様子を伝える ことができた。 ・金管バンドにより、活動の様子を伝えることができた。 ・月一の学校便りや週一回のHPの更新で校内の出来事 を発信している。また、地域の力を借り、(丸子テレビ・佐藤 新聞店さん)にお願いしている折り込み)できる限り、多くの 情報を発信するようにしている。 ・学校便り、学年行事、全校行事、給食便り、ホームページ等 で学校の様子を発信できた。	○	・引き続き、情報発信により、学校の様子を知らせていき たい。 ・ホームページが活用できていない方々にも情報が伝わりや すいよう、エリアトークの活用もしていきたい。 ・今後も、子どもたちの良い面が伝わるように、そして、意欲に つながる内容を心がけたい。 ・これからも学校方針や多くのことを発信していく。 ・学校便りは楽しみで、じっくり目を通すことができてよい。い ろいろな年齢層の人が学校のことを知れるように、エリアト ークの活用をもう少しやることができるとよい。 ・今後も継続していく。
	地域から学 ぶ・地域 の教育力 の活用	・自然環境を生かした学びを 進めたり、地域の教育力を活 用したりすることができたか。	・地域めぐりで住民の方から話を聞くなど、児童と交流しな がら地域への思いを知ってもらえるようにしている。 ・地域ボランティアの方々に多くの協力をいただき、様々な 活動をしている。地域力で多くの体験を行うことができてい る。地域ボランティアの力に感謝している。	○	・地域の方々の協力を得ながら、今後も積極的に連携し、活 動していく。連携はしていくが、やっていただいていることを当 たり前と思わずに感謝の気持ちを忘れないようにしたい。 ・地域人材をもっと活用できるには、コーディネーターが欲し い。 ・他校のような、支援ボランティアが独自の運営活動ができ るようになるとうい。	
	研 修	授業力の 向上	・伝える力・聴く力を高める授 業のために、日々授業改善を し、研究会等を通して学ぶこ とができたか。	・今年度は国語部会、人権部会と2つの研究部会を設置し て、授業を公開をおこない、全校で学ぶことができた。 ・学力差の大きい中、みんなが分かる授業の実現のため には、どのようにしたらよいか、さらに考えていく必要がある。 ・伝え合う授業をするためにどんな内容、方法の授業を仕 組むことが必要かさらに研究を重ねたい。	○	・学校全体で一つの教材の研究をすることで、いろいろな指 導法方法を知ることができ、職員の意識改革にもなってい る。 ・学力差のある児童をどのように指導していくか。職員の授 業改善を図る中で考えていきたい。
組 織	情報 の共有 ・全職員 による 学び 合い ・支え 合い	・教科指導や生徒指導などに 関わる情報を共有し、チーム で支援・指導にあたれている か。	・小さなことでも、連絡を密にし、報告するようにしている。 多くの先生方が支援、指導してくれるのでありがたい。 ・原級、支援級と常に連絡を取り合いながら進めていけてよ かった。 ・授業やそれ以外での子どもたちの様子を職員間で共有 することや、相談することを積極的に行い、多くの職員の目 で子どもたちを見ることができた。そして、自分自身も支え られた来たので、職員間のコミュニケーションを今後も続け ていきたい。 ・学校全体で情報共有し、配慮を要する児童に対し、支援を 続けている。連学年での支え合い、特別支援学級との連携 を大切にしている。	○	・今後も、職員間で情報共有し、全職員で子どもたちを見て いく。 ・定例の学年会を中心に、職員間のコミュニケーションを大切 にしていく。	

A…達成された B…ある程度達成 C…あまり達成されていない D…達成されていない